

6 学年保護者 様

須坂市立日野小学校長 上野 浩

平成 27 年度 全国学力・学習状況調査結果について

秋冷の候、保護者の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

日頃から、本校教育活動にご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、4月21日に全国一斉に実施された全国学力・学習状況調査の結果が届きましたので、その分析結果をお知らせします。また、個々の調査結果も順次配付します。お子さんと一緒にご覧いただき、今後の学習の参考にしていただけたら幸いです。なお、この調査結果につきましては、教育活動の一側面であり、測定できる学力の一部であること。また、今後の学習や生活・指導に活かしていくことを目的としていることをご理解願います。

学校としては、この調査結果を基に成果や課題を把握し、授業改善に努めたいと考えます。

1 調査内容

- (1) 国語A・算数A…主として身につけておきたい基礎的・基本的な知識に関する問題です。
- (2) 国語B・算数B…主として「基礎的・基本的な知識技能を実生活の様々な場面に活用する力」に関する問題です。(普段の生活に活かせるか調べる問題)
- (3) 理科…基礎的・基本的な理科の知識及びそれらを活用する問題です。
- (4) 生活習慣や学習環境に関する調査…学習意欲、学習環境、生活の諸側面等に関するものです。

2 調査結果及び考察

【 全体を通して 】

○調査結果より、全ての教科(国語A・B、算数A・B、理科)において全国平均・県平均を上回っております。どの教科もバランスよく力をつけている結果が得られましたので、今後それぞれの教科について児童が更に意欲的に取り組み、理解を深めていく指導に努めたいと思います。特に、漢字の読み書きや計算問題は正確にできており、ドリル学習等を通して着実に身につけてきていることがうかがえます。操作・実験などの体験的な学習活動を積極的に取り入れ、算数や理科の理解を深めるとともに、作文等の文章表現を高める指導に力を入れていきたいと考えます。

○普段の生活や学習環境の調査から、全体的には与えられたことや指示されたことに対しては、一生懸命取り組もうとする意識が高いようです。仲間と力を合わせたり知恵を絞り合ったり成し遂げた経験が少なく、自分の考えや願いを表現しようとする意欲が低い傾向にあります。総合的な学習の時間等の充実により、自ら課題を見つけ自ら解決していこうとする学習活動に今後力を入れていきたいと思ひます。

【 国 語 】

(1) A問題…全体を通して全国平均・県平均を少し上回っております。今までに学習してきた漢字の読み書きを中心に、基礎的な問題がよくできていました。また、相手の話を聞き取ったり、自分の立場を明確にして話したりする力についてはついてきている結果が表れました。「書くこと」に関する問題の正答率が低かったため、今後は、目的や意図に応じて、相手に伝わるように文章を書く力を充実させたいと思ひます。

(2) B問題…全国平均・県平均を上回っております。「書くこと」・「読むこと」のどの領域においても上回っており、問題別に見ると、文章の要旨をまとめて書く正答率が、高かったのが特徴と言えます。

【算数】

(1) A問題…全体的に全国平均・県平均を上回っております。数と計算・量と測定・図形・数量関係のどの領域においても県平均を上回る結果を得られました。また、問題別では、見取図と展開図を関係づける問題では、県平均を8ポイント上回りました。小数や分数の計算もよくできていることから、計算技能が身につけていることがうかがえます。

(2) B問題…どの領域においても、全国平均・県平均を上回っております。観点別に見ると、数量や図形についての技能面では6ポイント上回っているものの、理解面については5ポイント下回っている結果でしたので、意味理解に重点を置いた学習指導に力を入れていく必要があると思われま。

【理科】

(1) 全体的には、全国平均・県平均を上回っております。今回は、活用に関する問題が知識に関する問題よりよくできていたのが特徴です。領域別に見ると、特にエネルギーや地球の分野で理解ができていると言えますが、観察・実験技能を問う問題でやや下回っております。

(2) 問題別に見ると、振り子の実験や植物の生長と光の関係など高い正答率を有する問題と生物の成長に必要な養分の取り方を問う問題のように低い正答率のものや極端な結果が表れました。各領域を通して知識・理解の定着を図る指導に努めたいと思います。

【生活習慣や学習環境】

調査結果から、

(1) 朝食は全員が毎日食べ、早寝早起きを心がけている傾向にあります。また、地域の行事にも積極的に参加している児童の割合も多い結果が得られました。しかし、将来の夢や目標を持っていたり、自分にはよいところがあると認識したりしている割合が、全国・県と比較すると若干低い傾向にあるのが気になります。

(2) 学校の昼休みや放課後、或いは休日に学校及び地域の図書館等で本を借りに行く児童が、全国・県平均を大幅に上回り読書を生活の楽しみにしている児童が多いことがうかがえます。

(3) 説明文や感想文を書くこと、自分の意見を発表することに少し苦手意識を持っている傾向が見られるので、全教育活動を通して言語活動の充実を図っていく必要があると考えます。

(4) 国語・算数・理科学習への関心・意欲は高く、多くの児童が大切な勉強であると考えています。家庭学習は、学校から出された課題を忠実にこなそうとしている児童がほとんどで、習慣化されている傾向にあります。勉強時間を少しずつ増やして、復習など自ら取り組み、学習の定着を図ろうとする意識を高めていきたいと思ひます。

3 今後の学習指導の方向

今回の全国学力・学習状況調査の結果及び考察をふまえ、さらに児童の学力向上をめざしていくため、次のような充実を図っていきたくて思ひます。

(1) 言語活動の充実

教師の説明に終始する授業でなく、子ども同士で考えを出し合いながら検討し合う場面や、考えたり発想したりしたことを絵図や文章に表す学習場面を積極的に取り入れます。

①国語…自分の考えを基に仲間と考えを伝え合ったりする場を設定する。

②算数…考えや根拠を図や式などに表して説明する場を積極的に設定する。

③理科…観察・実験結果を図表に表し、友と考えを吟味し合う場を設定する。

(2) ノート指導の充実

①学習のめあてをノートに記述して、その授業で何を学ぶのか明確にする指導。

②めあてにそって、どのような筋道で学習していったのかを書き留めていける指導。

③どのように追究して何がわかったのかを記述できるようなノート指導。

(3) 家庭学習の充実

①ノートを活用し、その日の学んだことを確かめたり発展させたりして理解の定着を図る。

②授業で理解したことを中心に、ドリル的な学習を通して計算や図形等の技能の定着を図る。